

オープンキャンパスに行こう！～進路ガイダンスを実施しました～

本校では、夏休み前に各学年で進路ガイダンスを実施し、生徒に対してオープンキャンパスや進路イベントへの参加を積極的に促しています。実際に学校を訪れることで、校風や雰囲気、学びの内容、自分に合っているかどうかを具体的に確認することができ、進路選択に大きく影響します。

また、現在本校でも主流となっている総合型選抜は、3年次の9月に出願が始まる学校が多く、その時に志望理由書の提出が求められます。志望理由書では「将来の目標」や「そのきっかけ」に加え、「なぜその学校を選ぶのか」が問われるため、早い段階から複数の学校を比較し、それぞれの特徴を理解しておくことが大切です。さらに、オープンキャンパスに限らず、看護体験や施設見学、保育園見学、美術館や展示の見学、国際交流などの体験活動も推奨しています。実際の現場に触れる経験を通して、自分の興味や関心をより具体的にしていくことができます。

ご家庭におかれましては、これらの活動への参加を後押ししていただくとともに、進路について話し合う機会を積極的につくっていただければ幸いです。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



オープンキャンパスでは学校の雰囲気を知るだけでなく、入試制度についての理解も深まります。本校の指定校推薦が気になる方は、ぜひ進路指導部までご相談ください。昨年度の指定校推薦一覧も確認できます。

授業紹介～進路実現AB 1学期の活動～



- 4月 志望理由書の作成・業者添削、面接ワークシートの作成
- 5月 昨年度の要項や紹介パンフ等の研究、志望校・企業の情報整理やこれまでの進路活動の振り返り
- 3学年進路実現サポーター決定
- 6月 サポーターと進路活動計画・希望進路に応じた書類作成
- 7月 面接練習、夏季休業期間の進路活動計画



宮田スクールカウンセラーより 保護者のみなさまへ「お子様への声掛け」

「進路、そろそろ考えないかね」そんな会話が増える時期になりました。

保護者の皆さまも、「このままで大丈夫かな」「もっと動いた方がいいのでは」「何を考えているのかわからない」と、不安になることがあるかもしれません。高校生の進路の悩みは、「どこに進学するか」「何になりたいか」だけでなく、失敗したくない・自分に向いているものがわからない・周り比べて焦る・期待に応えたいなど、さまざまな気持ちが重なっています。最近ではSNSなどで他の人の進路が見えやすく、「みんなは決まっているのに、自分だけ…」と感じやすい生徒も少なくありません。そのため、保護者の方が心配して伝えた言葉でも、子どもには“プレッシャー”として届いてしまうことがあります。進路を考える時期は、“将来を決める時期”であると同時に、“自分自身を考える時期”でもあります。すぐに答えが出なくても、**安心して迷える経験は、これから自分で選び取っていく力につながっていきます。**

保護者の方も、一人で抱え込まず、困った時には学校やスクールカウンセラーにもご相談ください。

励ましのつもりでも、
不安が強い時期の子どもには
苦しく感じられる声掛けの例

「もっと早く考えたら？」
「〇〇さんはもう決めたって」
「将来困るよ」

「悩むよね」
「今、何が一番不安？」
「一緒に整理してみようか」

↑のような声かけは、
「話しても大丈夫なんだ」と
いう安心感につながる

取り組んでほしい活動夏



1年

まずは1学期を振り返り、勉強や定期考査への取り組みで改善点がないか確認し、2学期に備えましょう。次に、興味のある分野のオープンキャンパスにできれば複数参加し、進路を具体的にイメージしてみてください。予備調査で提出した来年度の科目選択についても確認できるはずです。また、英検などの資格取得に向けて、まとまった時間を活用することもおすすめです。

進路ガイダンスでや進路面談でも話した通り、夏休みには必ずオープンキャンパスや進路イベントに参加しましょう。実際に足を運んで学校の雰囲気や学びの内容を自分の目で確かめることが大切です。複数の学校に行き「比べる」ことで、自分に合う進路が見えてきます。迷っていても大丈夫です。まずは行動することが進路決定への一番の近道です。

2年

進路活動が本格化する時期です。志望先の最終検討とともに、出願書類の準備や面接対策を計画的に進めましょう。求人票・募集要項の確認は早めに行い、不明点は必ず相談してください。日々の授業や生活態度も評価の対象となるため、最後まで気を抜かず取り組むことが大切です。

3年

進学先の種類(目的／特徴)

種類	大学	短期大学	専門学校
目的	広く深い学問研究を行い、専門的な知識・技術をもつ職業人を育成	比較的短期間で、基礎的教養と実務に役立つ専門的知識・技能を身に付けた人材を育成	特定の職業分野に直結する実務的・専門的な知識と技能を修得させ、即戦力となる人材を育成
特徴	・修業年限は4年制が一般的 ※医学部、歯学部、獣医学部、薬学部（薬剤師養成コース）は6年制 ・卒業時に「大学士」を授与 ・教育課程は「教養課程」と「専門課程」に分別 教養課程：学部に関係なく基礎的・教養的な科目を学ぶ。 ・専門課程：学部・学科ごとの専門科目を履修し、特定分野の知識を深める。	・修業年限は原則2年 ※看護、保育など一部は3年の場合あり ・教育課程は、教養科目と専門科目をバランスよく配置し、実習・演習を多く含む構成 ・卒業時に「短期大学士」を授与 ・地域や産業界と連携した実践的科目が多く、編入学制度を通じて4年制大学の3年生へ進級できる制度がある学校もある。	・修業年限は1～4年程度だが、2・3年が中心 ・実習や実技、インターンシップの比重が高く、現場で必要なスキルを段階的に習得できる。 ・所定の要件を満たして卒業すると、「専門士」または「高度専門士」を称することができる。 ・分野は工業、商業実務、医療、福祉、教育・社会福祉、文化・教養、衛生、服飾・家政、農業、看護、IT・デザイン・観光など多岐にわたる。

種類	職業能力開発センター (旧都立技術専門学校)	専門職大学・専門職短期大学
目的	職業に必要な知識・技能を習得し、早期の就職をめざす人に対して、実践的な職業訓練を提供（学歴にはならないが、専門学校と同様に、就業のために必要な技能を体系的に身に付けることができる）	産業界の実務ニーズに直結した高度な実践力と理論を統合的に身に付け、現場で課題解決を主導できる職業人を育成
特徴	・年間学費は約12万円程度 ・1年コース、2年コースは通学定期・学割の適用が可能 ・都内には13校の職業能力開発センターがあり、それぞれが職業分野別に訓練を実施 ・設置課程は有料課程と無料課程があり、分野やコースはセンターごとに異なる。訓練内容は実習を中心としており、短期間で職業スキルを身に付けることを重視	・専門職大学は主に4年制、専門職短期大学は2～3年制 ・カリキュラムは学術理論の学修に加え、長期かつ体系的な実習（インターンシップ等）を必修としている。 ・企業や自治体等と連携し、実務家教員による授業を多数配置 ・学位は、専門職大学で「学士（専門職）」、専門職短期大学で「短期大学士（専門職）」を授与